

令和6年度
栗山町政策評価委員会報告書
(栗山町外部評価制度)

令和6年12月
栗山町政策評価委員会

～ 目 次 ～

1. 評価を終えて	1
2. 評価結果（総合判定及び総合コメント）	2～7
3. 活動方針	8～9
4. 活動経過	10
5. 評価・判定項目と判定基準	11～14
6. 委員名簿	15
7. 【参考】評価集計シート（各委員の個人評価）	16～18

1. 評価を終えて

去る9月から進めて参りました令和6年度の政策評価委員会では、昨年度からスタートした「栗山町第7次総合計画」に掲げられた153ある個別事業の中から一定の基準により絞り込み、各分野より計3事業を選定し評価を行いました。

本報告書のまとめに至る全6回の委員会においては、「町民の目線」による評価を行い、外部評価の意義や必要性、評価方法等についての確認・協議はもちろん、各事業の知識を深めるための事前学習会の開催や、事業担当課からのヒアリングにより事業内容や課題等の把握に努め、公正・公平かつ慎重に審議を重ねてきました。

今回から委嘱を受けて初めて政策評価を行った委員も多く、さらに「栗山町第7次総合計画」では事業体系が変わり各個別事業の実施内容も幅広くなったことも加え、勉強と苦悩の日々ではありましたが、常に「町民の目線」を意識し、より良い事業の改善に向けた評価に取り組んで参りました。官民一体となった事業の展開と成果の一助としていただくべく、本委員会の評価結果をご報告申し上げる次第です。

最後になりますが、本委員会の有識者委員としての的確なご助言等を頂戴しました北星学園大学教授・鈴木克典教授、また、活動をサポートしてくれた事務局職員のご協力に対しまして心から御礼申し上げます。

栗山町政策評価委員会 委員長 三浦 浩

総合判定	計画通りに進める
総合コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・(必要性) <p>栗山高校の維持・存続は、中学生への進路選択の拡大のみならず、まちの将来を担う若者に対し地域への愛着をはぐくみ、地域の人材育成・確保につながると期待されることから、栗山町の魅力を取り入れた学校づくりが必要である。</p> ・(公平性) <p>生徒の希望進路の実現や生徒確保のため、学習支援や通学支援など補助を必要とする生徒に対して実施されており、また、生徒確保によって、栗山高校の生徒だけではなく、間接的に住民全体に還元されている点からも、公平性は評価する。一方で、女子硬式野球部の活動が魅力の一部と位置づけられていることから、PR など施策の効果で入部希望者の増加により、多くの予算が投じられる傾向だが、特定の部活や部活動にとどまらず、幅広い生徒に対する支援や魅力づくりの強化が課題である。</p> ・(協働性) <p>栗山高校への進学を検討している中学生に対し、町内・町外問わず広く情報提供されており、入学後の生徒にも情報提供されている点で、協働性は担保されている。また、支援助成金の使用者に対して、アンケートを実施することで、意見聴取が行われており、今後の施策の改善に努めていることを評価する。</p> ・(実施方法) <p>支援助成金使用者に対するアンケート結果を、町民も参加する栗山高校魅力化ビジョン推進会議において、支援策の内容を検討されていることから、ニーズの把握をした上で、実施している点は評価する。しかし、今後は時代や環境の変化とともにニーズが変容していくため、他の高校に埋もれないような魅力づくりが一層と必要性を増してくる。生徒自身が『やりたいこと』に耳を傾け取り入れることや他の高校の事例など引き続き調査・検討が必要である。</p> ・(事業成果) <p>事業実施により 2 間口維持ができており、また、女子硬式野球部の部員数増加など、本事業における支援策の効果が成果に結びついている。</p> <p>しかし、生徒確保には、一層の魅力づくりと情報発信の強化が求められる。栗山町にある農業や自然など資源の活用も、栗山町ならではの特色のある学校づくりをする上で欠かせない。地域や企業、中学校、大学との連携活動や社会貢献活動も、地域に根差した人材育成としては必要な取り組みである。また、生徒の自主的な活動(提案型)に対して応援するような仕組みづくりや、多様な進路実現に向けた支援も必要である。</p> <p>高校の情報発信も、より一層の工夫が求められるため、引き続き見直しと改善が必要である。</p>

事業名	広域組合の共同処理(焼却・埋立)により、安定したごみ処理体制を構築します。		
事業期間	R5～R12	担当課所	環境政策課 環境政策 G
政策体系	I 生活		
	(1)ごみ処理 施策 ①ごみの減量化・資源化の推進		
	<input checked="" type="checkbox"/> 重点	<input checked="" type="checkbox"/> 充実	<input type="checkbox"/> 新規
事業概要	広域運営による廃棄物共同焼却処理や最終処分場整備により、安定的かつ長期的なごみ処理体制構築。		
R6 計画	焼却灰処理委託業務(1,650t焼却 ※主灰12%・飛灰4.4%)		
	<p>(主灰) @42円×198,000kg×1.1=9,147,600円</p> <p>(飛灰) @42円×73,000kg×1.1=3,372,600円</p> <p>(主灰・飛灰)@1円×271,000kg(循環資源利用促進税)=271,000円</p> <p style="text-align: right;">計 12,791,200円≒12,792,000円</p>		
	道央廃棄物処理組合負担金		
	内訳	組合議会及び執行機関の運営経費	2,412,105円
		最終処分場建設地の選定に要する経費	438,186円
		廃棄物焼却施設の建設に要する経費	11,550,524円
		廃棄物焼却施設維持管理費	71,208,008円
		計	85,608,823円≒85,609,000円
	合計98,401,000円		
	当初予算額		
	98,401 千円		

総合判定	計画通りに進める
総合コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・(必要性) <p>ごみ処理は、町民が地域で生活していくにあたって必要不可欠な事業であり、行政が責任を持ってあたかなければならない事業である。また、社会情勢や町民ニーズに合わせ、町の将来を見据え、適切に事業を実施していると評価する。</p> ・(公平性) <p>全町民及び町内の全事業所を対象としており、公平性は担保されている。また、本町を含む2市4町で構成される道央廃棄物処理組合によりごみ処理あっており、町民負担を適切にすべく、過度な負担にならないよう事業に実施していることは評価できる。</p> ・(協働性) <p>他事業によって実施されている住民向け説明会を実施することにより、ゴミ処理の変更についての周知や、説明会で出された意見により新たな指定ごみ袋をつくったことは、町民とともにごみ処理を考えていることは評価できる。一方で、分別が適正に行われていない現状もあり、資源ごみの分別を増やすことによる焼却ごみの減少で負担金の減少も見込まれることから、分別の重要性を広く町民に知ってもらうため、情報の内容を含めた伝え方と FM ラジオを活用するなど周知方法の見直しが必要である。</p> ・(実施方法) <p>住民説明会で出された意見から、5L の燃やせるごみの指定袋を作成したことについて町民ニーズに基づいて実施しており、また、コストのみならず多角的に比較衡量しながら事業を実施している。今後は他の自治体の施策の把握や、ゴミ袋の種類や料金など町民負担の見直しも必要である。</p> ・(事業成果) <p>活動指標である会議の開催については、適宜開催され、事業実施に係る適切な協議が行われている。また、成果指標である焼却量については、焼却施設稼働前であるため実績は出ていないものの、計画焼却量達成に向けて、ごみ分別の協力を町民に求めるなど、努力がうかがえる。</p> <p>一方で、住民との協力体制の強化には、客観的な数字を伴った処理コストなどの状況説明や、ゴミ分別の冊子とは違った方法で一層の周知体制の強化および遊び要素を加えるなど周知方法の工夫が課題である。例えば、イベントやお祭りで、景品付きのごみ分別クイズを実施し子どもから大人まで楽しみながら理解してもらえるよう工夫する。住民全体に協力してもらうには子どもから大人までが理解してもらうのが重要で、子どもたちが学校などで分別を学び、家庭内での親子の会話の中で分別を意識してもらうことも有効である。情報の流れる方向も視野に周知の仕組みづくりの検討が必要である。</p>

事業名	栗山町への移住・定住を促進します。		
事業期間	R5～R12	担当課所	若者定住推進課 若者定住推進 G
政策体系	IV 産業		
	(3)観光・交流 ①観光・交流の推進		
	<input checked="" type="checkbox"/> 重点 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 新規		
事業概要	きめ細やかな移住相談と移住者支援、栗山町の魅力を発信し、本町への移住・定住を促進します。		
R6 計画	①くりやま移住促進協議会助成金		2,000千円
	②移住コーディネーター報酬等		3,598千円
	通信費・研修費用		60千円
	③UIターン等促進奨学金返済助成		300千円
	UIJターン移住支援金		1,000千円
	④フラット35地域連携		
	⑤空き家流通促進事業		
	・窓口強化		5,940千円
	・地域おこし協力隊 (報酬3,192千円+活動費2,000千円)×1名		5,192千円
	・空き家プラットホーム構築		
⑥空き家利活用支援事業		700千円	
	当初予算額		
	18,790 千円		

総合判定	計画通りに進める
総合コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・(必要性) <p>移住・定住の促進は町の活性化に繋がる事業であり、人口が減少傾向の中、必要性は非常に高い。また、本事業は、町内の空き家対策を含め住み良い住環境整備、栗山町の魅力発信にも繋がるため、行政が実施すべき事業である。</p> ・(公平性) <p>移住・定住に興味を持つすべての人が対象となっている。移住・定住促進は町の人口・住環境に大きく影響することから、全町民に間接的に還元される事業のため、公平性は担保されている。</p> ・(協働性) <p>対象者に対して、若者世代にも対応すべく SNS 等も駆使し、情報発信も適切に行われている。移住相談については、対面の他、オンライン相談も行っており、きめ細かな対応を行っている。また、空き家プラットフォームの他、相談内容による町民・事業者と地域との連携・対応は、大きく評価できる。しかし、さらに多くの対象者へ周知をするには、対象者の分析と情報を求めている層に適切かつ効果的に情報を届ける仕組みの構築、効果的な発信方法の強化が望まれる。</p> ・(実施方法) <p>奨学金返済助成制度など若者のニーズに合った制度、移住コーディネーターの配置によるきめ細やかな相談窓口体制と移住体験、空き家アドバイザーによる移住者の受け皿となる空き家の掘起しなど手厚いサポート体制とニーズに応じたサービス設計が実施されている。制度利用者や移住体験者などに対し満足度調査を継続して実施し、町の魅力がより伝わる事業に発展することを期待する。</p> ・(事業成果) <p>本事業において工夫と努力を行い、活動指標である移住相談件数や空き家バンク登録件数、成果指標である社会減数の減少において効果が見られることは評価に値し、暮らし体験事業では、体験者ニーズに応じた体験メニューの工夫を図っていることも大きく評価できる。町の住民目線での魅力を把握するべく、より一層の情報収集を図ることが求められる。</p> <p>課題としては、情報発信の方法や内容の見直しである。検討には、行政だけではなく、高校や大学などの教育機関と連携するなど、若者の協力も必要である。10代～20代の世代は SNS の活用に明るく、この世代の視点や意見を取り入れることは若者や子育て世代の移住者の増加につながると見込まれる。例えば、学校の課題探求学習に、まちの魅力発見や SNS を使った周知方法の検討など取り入れてもらうなど、学生には地域に興味をもつきっかけとなり、行政は若者に届く周知方法の構築ができるため、学校との連携することも有効な方法と思われる。</p>

3. 活動方針

1. 活動目的

栗山町政策評価委員会（以下「委員会」という。）は、栗山町第7次総合計画に基づき、行政が実施する事業について、町民の視点による客観的な評価を行い、今後の方向性または取組に関する提言等を行う。また、本町の政策評価制度の充実に向けた提言を行う。

2. 評価対象事業の選定

評価対象事業は、栗山町第7次総合計画に基づき、町が令和6年度に実施する事業の中から下記の選定目安に準じ、委員会が選定する。なお、評価対象事業数は3事業程度とする。ただし、行政側からの評価希望事業の提示についても可能とする。

【選定目安】

- ①町民の生活に身近であるなど、町民目線による評価が有効と考えられる事業。
- ②第7次総合計画に掲げる重点プロジェクトに該当し、町の個性的な（独自性のある）取り組みが可能な事業。
- ③一定の事業の進捗があり、現時点の評価が有効な事業。
- ④令和6年度に実施する事業であり、令和7年度以降も継続が見込まれる事業。（単年度事業は含まない）
- ⑤町長公約に関する事業

3. 評価・判定項目及び判定基準

評価項目は①必要性、②公平性、③協働性、④実施方法、⑤事業成果の5項目とし、項目ごとに視点及び判定基準を設定する。また、総合判定項目は①計画通りに進める、②改善を検討、④抜本的見直しの3項目とし、項目ごとに判定基準を設定する。（資料3参照）

4. 評価手順

行政が行う内部評価の結果を参考に、担当課からのヒアリングを行い、委員個人による「個人評価」、委員会による「総合評価」を経て評価結果を決定する。個人評価では、前項3における評価項目の視点と判定基準により、各委員は採点を行い、その理由を含めて「個人評価シート」を作成する。

総合評価では、委員会において個人評価シートの内容を共有し、前項3におけ

る総合判定項目の判定基準により「総合判定」を決定するほか、事業改善に向けた各委員からの意見や提言は「総合コメント」として整理したうえで、「評価集計シート」を作成する。なお、総合判定及び総合コメントは、協議内容を踏まえて委員長及び副委員長が案をまとめ、委員会が評価結果として決定する。また、必要に応じて、評価対象事業に関する事前学習、現場調査等を実施する。

5. 報告書の作成・提出

委員会は、評価結果などをまとめた報告書を作成し、町長に提出する。町長は、その結果を十分に尊重して最終評価を決定し、事務事業の見直し及び改善、予算の編成等、町政の運営に反映するよう努めるとともに、町民に対する情報公開を行う。

6. 有識者委員（アドバイザー）の助言

委員会は、評価が円滑に進むよう有識者委員を設置し、その助言を求めることができる。

7. その他

この方針に定めるもののほか、必要な事項については、委員長が別に定める。

4. 活動経過

開催時期	内 容	活動段階	内部評価（行政）	
令和6年 9月30日	第1回栗山町政策評価委員会 ○政策評価制度・政策評価委員会の概要説明 ○委員会役員の選出 ○活動方針・活動計画の検討 ○評価対象事業の案の説明		1次評価（担当課評価） 10月上旬～下旬	
令和6年 10月23日	第2回栗山町政策評価委員会 ○評価対象事業の協議・決定 ○現地視察の有無、ヒアリング日程確認			
令和6年 11月6日	第3回栗山町政策評価委員会 ○各事業における評価項目と各視点の確認（ポイントの共有） ○評価対象事業ヒアリングの実施 1事業目 （評価視点に基づく事業担当職員からの説明・質疑応答）			
令和6年 11月20日	第4回栗山町政策評価委員会 ○評価対象事業ヒアリングの実施 2事業目 （評価視点に基づく事業担当職員からの説明・質疑応答）			
令和6年 11月27日	第5回栗山町政策評価委員会 ○評価対象事業ヒアリングの実施 3事業目 （評価視点に基づく事業担当職員からの説明・質疑応答）			
令和6年 12月11日	第6回栗山町政策評価委員会 ○評価対象事業の各委員評価報告 ○総合判定及び総合コメントの検討 ○報告書の構成検討			
令和6年 12月25日	第7回栗山町政策評価委員会 ○町長への報告書提出及び意見交換			2次評価（副町長評価） 12月下旬～1月中旬
令和7年 2月予定	第8回栗山町政策評価委員会 ○令和7年度予算及び事業内容の改善点（評価反映状況）の確認 ○令和7年度活動計画（素案）の確認 ○政策評価制度の課題点と改善点の検討・確認			最終評価（町長評価） 1月中旬～下旬

5. 評価項目と判定基準

(1) 個人評価：評価項目と各視点

評価項目	視点
①必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・現時点において実施すべき事業である（長期的な視点も含める） ・行政が実施すべき、または関与すべき事業である ・社会情勢や町民ニーズに事業の目的が合致している
②公平性	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者の範囲（年齢、性別、分野など）が適切である ・対象者への支援やサービスの提供に偏りが無い ・利用料など対象者（受益者）の負担内容は適正である
③協働性	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者への情報提供（周知）が適切に行われている ・対象者や関係者との情報共有や意見聴取（会議、懇談など）が適切に行われている ・対象者や関係者の積極的な事業参加につながっている
④実施方法	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者のニーズや意見などの把握・分析に基づいて実施している ・内部評価結果における改善内容を踏まえて実施している ・事業目的を達成するため適切なコスト（事業予算）で実施している
⑤事業成果	<ul style="list-style-type: none"> ・数値目標（活動指標、成果指標など）に基づき事業目的に対する努力や成果がみられる ・数値目標以外において事業目的に対する努力や成果がみられる ・事業目的の達成に向けて適切な改善策を講じている（改善の必要無しを含む）

(2) 個人評価：評価項目の判定基準（採点目安）

- 【5点】○印が3つ該当し、そのほかにも評価すべきことがある
- 【4点】○印が3つ該当
- 【3点】○印が2つ該当
- 【2点】○印が1つ該当
- 【1点】○印の該当なし

※上記の判定基準は目安であることから総合的に判断し採点する。

※一つの評価項目につき5点満点（事業全体では25点満点）

(3) 個人評価・総合評価：総合判定項目及び判定基準

総合判定項目	判定基準
①計画通りに進める	<p>事業目的や方向性が適正であり、効果的な実施方法が採用されており成果が認められる。継続して実施すべきである事業</p> <p>※政策評価委員会として今後さらに成果を高めるための提案等がある場合も含む（効果的と思われる新たな手法、事業規模の拡充など）</p> <p>※成果とは、活動指標や成果指標をはじめ事業目的の達成に向けた明確な数値や実情などを指す</p>
②改善を検討	<p>事業目的や方向性に問題はないが、成果が認められず実施方法について改善の検討を要する事業</p> <p>※事業課題に対して、対象者の見直し、他機関との連携強化、制度の普及・周知拡大など、実施手法や内容の改善</p> <p>※補助・交付単価、再積算による見直しなど事業費の改善</p>
③抜本的見直し	<p>事業目的や方向性に問題があり、抜本的な改善や他の類似事業への統合も含め、事業自体の見直しについて検討を要する事業</p>

評価項目	視点 (その他に評価すべきことは記述)	該当 (○印)	評価理由	点数 (1～5)
④実施方法	対象者のニーズや意見などの把握・分析に基づいて実施している			
	内部評価結果における改善内容を踏まえて実施している			
	事業目的を達成するため適切なコスト（事業予算）で実施している			
	()			
⑤事業成果	数値目標（活動指標、成果指標など）に基づき事業目的に対する成果がみられる			
	数値目標以外において事業目的に対する成果がみられる			
	事業目的の達成に向けて適切な改善策を講じている（改善の必要無しを含む）			
	()			

(い) 総合判定項目 ずれかに○	計画通りに進める		①～⑤合計点	/25点
	改善を検討			
	抜本的見直し			
総合判定理由				
改善策等提案				

6. 委員名簿

- ・栗山町政策評価委員会設置要綱の規定に基づき、委員会は5人以内の一般委員及び1人の有識者委員（アドバイザー）をもって組織。
- ・一般委員の全員を公募により決定した（町広報及び町ホームページにて募集周知）。
- ・委員の任期は令和7年3月31日まで。
（委嘱開始年度の差により細山委員の任期は令和6年3月31日まで）

区分	氏名	備考
委員 (一般)	三浦 浩	前年度より引き続き委嘱 ・令和5年度政策評価委員
副委員長 (有識者)	鈴木 克典	前年度より引き続き委嘱(町推薦) ・平成25年度アドバイザー委嘱 ・北星学園大学経済学部経営情報学科教授
委員 (一般)	丸山 秀子	前年度より引き続き委嘱 ・令和5年度政策評価委員
委員 (一般)	金谷 美咲	新たに委嘱
委員 (一般)	上田 美佐子	新たに委嘱

7. 【参考】評価集計シート（各委員の個人評価）

事務事業名 事業番号 40 栗山高校の生徒確保と希望進路を実現する支援策の充実を図ります。

評価委員	①必要性		②公平性		③協働性		④実施方法		⑤事業成果		総合判定		
	点数	評価理由	点数	評価理由	点数	評価理由	点数	評価理由	点数	評価理由	合計	判定項目	上段＝判定理由、下段＝改善策等提案
委員 1	4		3		2		4		2		15	改善を検討	更に栗山高校の魅力部分を広げ、工夫周知し、生徒の確保を図る。 通いの利便性も合わせ改善及び検討していく。
委員 2	4		4	女子野球部以外の部活動強化もされることに期待！	3	北海道・栗山町・高校（近隣市町村）交通機関などに常に連携をお願いします。	4		4	スタディサプリが行政負担で利用できることが魅力	19	計画通りに進める	通信制や専門科が人気となり、札幌などに出ていく子ども多くいると思います。今の子どもたちが進みたいと思う学校づくりをお願いいたします。 学校祭が輝きをうかがえなく、生徒がやりたいことを聞いて、反映してほしいです。中学生を招待して憧れの高校に思ってもらえる取り組みがあってもいいかもしれません。
委員 3	4	栗山高校を存続させることには人材確保や地域への愛着を育むことなど、大きな意義がある。栗山町の魅力を取り入れた学校づくりのためにも町が関与することは必要不可欠であると感じた。	3	女子硬式野球部の設立も相まって入学者数が増加しているため、部活動への支援に多くの資源を投じることは重要である。しかし今後は部活動に参加していない生徒たちにとっても大きな魅力となる施策が必要になってくると感じた。	4	地域みらい留学（オンライン上でのPRや東京での合同学校説明会）への参加や、支援補助金の内容をわかりやすくまとめたPRチラシの作成など積極的な周知が行われている	4	栗山町の特色を生かした魅力づくりのため、町民も参加し、協議を行っている。また、空知管内全中学校に訪問し、学校の特色を周知するための努力を行っている点も高く評価することができる。	4	人口減少、少子高齢化が加速している中で、2間口が維持されていることは大変素晴らしいことだと感じている。町民、保護者のみならず生徒たちの意見にも耳を傾けながら事業を継続していただきたい。	19	計画通りに進める	短期間で成果が見えるものではなく、高校の魅力化事業だけでは解決できない課題が多数存在する中で、町が町民との協力体制を築きながら尽力している点を高く評価したい。また、介護福祉学校と連携し、『栗山と介護』という新たな科目を新設するなど、進路の選択肢を広げる取り組みも始まっており、今後の更なる成果に期待を寄せたい。 女子野球部の設立と町民や町職員の方々の手厚い支援が契機となり、多くの入学希望者を集め、効果的なPRとなっていると感じている。しかし、今後は部活動に所属していない生徒にとっても魅力的に感じられる特色を作り、また、支援が行き届くことを期待する。他市町村の事例を参考にしつつ、自然や農業、地方創生といった栗山町ならではの特色を学校づくりに反映していただきたい。また、生徒や保護者が重視する卒業後の進路支援にも一層の強化を図っていただきたい。
委員 4	3	本町唯一の高校で維持存続は町民の願いでまちづくりに重要な存在だと思えます。	4	支援補助金が出ているとは思わなかった。生徒にとって親にもいい支援だと思えます。	4	中学生たちに支援補助金などもっと情報提供してほしいと思う。	3	生徒の支援にもっと補助金を増やしてもいいと思う。	3	入学生徒が増えて1学級から2学級になることはいいことだと思う。	17	計画通りに進める	生徒確保を目的とした支援補助金制度が充実しており、2学級維持と一定の成果がうかがえることから継続実施することで今後の成果に期待する。
委員 5	5	町内唯一の高校を維持することは教育環境を維持する上で重要である。町内唯一の高校であり、その教育機関を維持することは、まちの将来を担う若者や人材の育成、子どもたち（若者）の学ぶことができるという教育環境の維持、中学生への選択の拡大という意味において、必要性は大きいと考える。	4	支援補助金は、栗山高校を対象とし、生徒の進路希望の実現、定員確保や間口確保のために、学びや通学等、補助を必要とする生徒に対して行われており、公平性は担保されている。また、生徒確保によって、高校生だけでなく、間接的に住民全体に還元されるものとなっている。	4	栗山高校への進学を検討している中学生に対し、広く情報提供されており、また入学後の生徒にも情報提供され、協働性は担保されている。また、支援補助金の使用者に対して、アンケート調査も行われており、意見聴取が行われており、適切なコミュニケーションがとられていると考える。	4	支援補助金の使用者に対して、アンケート調査を行い、その結果をもとに栗山高校魅力化ビジョン推進会議において、支援策の内容について検討も行われていることから、対象者のニーズ・シーズ把握した上で適切に実施されていると思われる。また、コストも事業内容に鑑み、適切に執行している。	4	新入学生徒については、間口の確保できているなど、事業開始前に比較し、相当数の生徒数が得られている。また、女子硬式野球部の部員数の増加など、本事業における支援策の効果により、しっかりと成果に結びついていると判断できる。	21	計画通りに進める	栗山高校への進学を検討している中学生等、対象となるターゲット層に対して周知を行ったり、また支援補助金の使用者に対してアンケート調査を行うなど、ターゲットする対象者（栗山高校の生徒）に対して、ニーズを捉えた効果的な支援を行っていると思われる。また、入学者数の増加・維持に結果として表れているなど、客観的な効果も見られており、「計画通り進める」と判断した。 時代や環境の変化とともに、中学生や高校生のニーズが変容する可能性があるため、より一層のニーズ把握と必要な支援策を検討していく必要がある。また今後は、地域や企業、中学、大学との連携活動、社会貢献活動に対して、支援できるような仕組みがあると良いような気がする。また併せて、生徒の自主的な活動（提案型）に対して、応援するような仕組みがあると良いと思う。

評価委員	①必要性		②公平性		③協働性		④実施方法		⑤事業成果		総合判定		
	点数	評価理由	点数	評価理由	点数	評価理由	点数	評価理由	点数	評価理由	合計	判定項目	上段=判定理由、下段=改善策等提案
委員 1	4		3		1		2		2		12	改善を検討	<p>栗山住民お一人お一人の意見を細部に渡って汲み取り、更にお一人お一人に周知できるようなご理解いただけるような方法がまだまだ取れていないため。適正な分別ができていない、また理解できていない住民がいるため。周知徹底が必要。栗山住民の税金をすこしでも少なくできるリサイクル回収推進ができていないため。</p> <p>他の自治体は、どうしているのか(全国)。内だけではなく、外をよく見て、環境にやさしい自然にやさしい事がなされているか適宜確認をして、慎重に推し進めていく。住民のニーズに合わせていく。</p>
委員 2	4	新施設では発電機能もあることをもっと PR してもいいと思った。ごみを出す=環境に良くないイメージがあるが少しプラスに感じる。	4		3	文書だけの周知では理解が難しいと感じた。FM ラジオ等で今回ご説明いただいた内容を伝えて欲しい。	4	ごみ分別に厳しすぎる印象が今まであったが、今回の分別の変更などに関しては、町民の意見が反映されているため、とてもよく思える。	4		23	計画通りに進める	<p>全町民が対象の施策なので、どんな人でもごみ出しについて理解できる周知をお願いいたします。</p> <p>資源ごみの袋を買うと高くつくためスーパーに持っていく、無料で回収してもらっている町民が多いと思います。札幌市のように資源ごみは指定なしになるとありがとと感じます。袋の種類を減らしたり出来ると町民もうれしいはずです。</p>
委員 3	4		4		4		4	必要に応じた委託など、コスト面やメリットとデメリットのバランスを考慮しながら運営している。	2	焼却施設が稼働して間もないため、数値としての実績が出ていない。	18	計画通りに進める	<p>これまで町民にとって負担となっていた複雑なごみ分別が、今年度より簡略化され、負担軽減につながった点は非常に評価できる。ごみの排出量が増加すれば処理コストも上昇するため、この事業の継続的な効果を確保するには町民の協力が不可欠であると感じる。今後も、町民に対し本事業のメリットと課題を丁寧に周知しながら、さらなる協力を促す取り組みを期待したい。</p>
委員 4	4	燃焼熱を回収し蒸気によって発電し施設内で利用し余った電力を活用していることは良いと思う。	4	町民がもっと適正な分別ができるよう分別説明会をもっと増やしてほしい。	4	町民の意見を聞き速やかに指定袋をつくる。これからも意見を取り入れてほしい。	2	生ごみ指定袋の見直しをしたことニーズによりそう事業展開は良いと思う。	2	活動指標の会議を開催していることは良いと思う。	16	計画通りに進める	<p>生ごみ指定袋の見直しをしたことなど、町民ニーズに寄り添っており評価できるが、町民向け分別説明会の開催を増やすなど、分別に対する周知・理解促進を強化してほしい。</p>
委員 5	5	ごみ処理は、法律で定められているということもあるが、それ以上に町民が地域で生活していくにあたって必要不可欠な事業であり、行政が責任を持ってあたなければならない事業である。また、社会情勢や町民ニーズに合わせて、町の将来を見据え、適切に事業を実施している。	5	全町民及び町内の全事業所を対象としており、公平性は担保されている。また、本町を含む2市4町で構成される道央廃棄物処理組合によりごみ処理にあたっており、町民負担を適切にすべく(過度な負担にならないよう)事業にあたることは評価できる。	5	他事業によって実施されている住民向け説明会を地域ごとに多数実施することにより、周知を行うとともに理解を求めることに努力している。また、住民説明会により出された意見により、新たなごみの指定袋をさせてするなど、町民とともにごみ処理を考えていることは評価できる。	4	住民説明会により出された意見により、新たな小さな燃やせるごみの指定袋の作成を行う等、町民の生活上のごみ排出のニーズに合わせた形で事業を実施している。また、町の将来を見据えた形で、道央廃棄物処理組合に加盟し、適切なコストでごみ処理を行うべく、努力している。	4	活動指標である会議の開催については、適宜開催され、事業実施に係る適切な協議が行われている。また、成果指標である焼却量については、焼却施設稼働前であるため実績は出ていないものの、計画焼却量達成に向けて、ごみ分別の協力を町民に求めるなど、努力を行っている。	23	計画通りに進める	<p>ごみ処理は町にとって、また町民・事業所が町内で生活・活動を行っていく上で、必要不可欠な事業であり、その事業を適切に実施していると判断できる。また、本町の置かれた環境、諸事情を鑑み、また町の将来を見据えた上で、道央廃棄物処理組合での協働、住民との周知・協働等、工夫を重ねながら事業にあたっていることは、大きく評価することできる。</p> <p>本事業の理解を町民にさせていただくよう、客観的な数字も伴った状況について情報発信をしていく必要があると思われる。また、本事業ではないものの、大きく影響を及ぼすごみ分別について、より一層周知されるよう説明会に加えて、学校(小中高・福祉学校)や事業所を対象とした分別体験会(クイズ大会)等、遊びの要素を加えた催事(お祭りで実施するの一案)を行っても面白いと思う。</p>

評価委員	①必要性		②公平性		③協働性		④実施方法		⑤事業成果		総合判定		
	点数	評価理由	点数	評価理由	点数	評価理由	点数	評価理由	点数	評価理由	合計	判定項目	上段=判定理由、下段=改善策等提案
委員 1	4		4		4		3		3		18	計画通りに進める	<p>移住を決めるのが短い期間で決められているという事は、勤める側の勤め方や受け入れ体制が整っているという事だと思う。様々な工夫をし、他地域とも連携をしながら推し進めている。SNS等を活用し対象者に適切に伝わっている。移住体験ツアー今後も続けていきたい。</p> <p>タイミングよく、その移住希望の方にニーズに合わせ、空き家を提供できるよう、空き家の掘り起こしを更に推し進めたい。</p>
委員 2	4	家を手放す必要がある人、そこに住みたい人、お互いに win-win!	4	自分の現役時に奨学金返済助成制度があって知っていたら、まちがいに使っていた。	3	デジタルにくわしくない世代の方など、町内に直接おとずれる人もいるはずのため、くりふとやクリエイターズマーケットなどに『移住相談は役場へ!』というような看板などがあればいいと思った。	4		4		15	計画通りに進める	<p>移住コーディネーターの腰本さんのお仕事ぶりを見る機会が多いですが、移住体験の方にとっても親身になって接しているのがわかります。一町民から見ても、とても心強く感じます!</p> <p>イベント時の宿泊場所が限られた町内。空き家を一時的にゲストハウスのように使えたらいいかもしれないと思いました。</p>
委員 3	4	少子高齢化が進行する現状において、移住・定住促進は地域の活力維持のために極めて重要な事業である。	4		2	多くの対象者へ本事業の取り組みについて周知をするために、対象者の分析を進め、情報を求めている層に適切かつ効果的に情報を届ける仕組みの構築が必要であると感じている。	4	移住体験事業では、参加者数だけでなく満足度を重視した手厚いサポートが魅力的であり、ターゲット設定が明確でニーズに応じたサービスや制度設計が適切に行われている点が高く評価できる。	4	移住後の定住促進に向け、空き家対策や関係部局との連携体制をさらに強化し、持続可能な仕組みの整備を期待したい。	18	計画通りに進める	<p>栗山町のにぎわい創出において重要度の高い事業であり、移住コーディネーターや空き家アドバイザーといった専門のスタッフを配置することで、栗山町らしさを活かした取り組みとなっている。</p> <p>明確なターゲット設定ができていて点を高く評価したい。だからこそ、さらに満足度調査などを継続的に実施し、町の魅力をよりの確に伝える事業にしていくことに期待したい。また、対象層に確実に情報が届く効果的な発信方法の強化を望む。</p>
委員 4	3	空き家が多いと思います。札幌からも近いのでコーディネーターさんに細やかな移住体験・相談を頑張ってもらいたいです。	3	若い人たちの移住が多くなっている。UIターンもあり相談を取り組み、移住施策してほしい。	3	地域住民の協力連携が一番。	3	栗山体験・滞在中に冬の生活も体験してもらいたい。	4	移住に欠かせない専門知識のきめ細やかな相談が必要。空き家アドバイザーにも頑張ってもらおう。	16	計画通りに進める	<p>移住コーディネーターの相談業務や空き家アドバイザーによる住宅環境の整備などきめ細やかな対応のほか、地域住民との協力体制も評価できる。</p>
委員 5	4	人口が減少傾向の中、移住・定住の促進することは町の活性化に繋がる事業であり、必要性は非常に高い。また、移住・定住の促進を図ることは、町内の住み良い住環境整備、町内の素晴らしいところの全国に向けた魅力発信にも繋がり、行政が実施すべき事業である。	4	移住・定住促進のため、それらに興味を持つ人たち等をターゲットとするすべての人を対象としている。また移住・定住促進は町の人口・住環境に大きく影響することから、全町民に間接的に影響する(還元される)事業となっており、公平性は担保されている。	4	対象者に対して、若者世代にも対応すべく SNS 等も駆使し、情報発信も適切に行われている。移住相談については、対面の他、オンライン相談も行っており、きめ細かな対応を行っている。また、空き家プラットフォームの他、相談内容による町民・事業者との連携・対応は、大きく評価できる。	5	きめ細かな相談に対応すべく町民・町内事業所と連携を図った空き家アドバイザーや移住コーディネーターを配置による窓口強化、空き家プラットフォームの構築等、受け皿となる空き家の発掘にも努力を行っていることは評価できる。また、くりやま暮らし体験における体験者ニーズ対応も大きく評価できる。	4	移住コーディネーター配置によるきめ細かな移住相談、空き家アドバイザー配置による空き家流通促進等もあって、活動指標である移住相談件数、空き家バンク登録件数も増加傾向となっている。また、成果指標である人口の社会減数の減少にも一定の成果が見られ、大きな評価に値する。	21	計画通りに進める	<p>全国の多くの自治体において移住・定住促進活動が実施されている中、本事業において工夫と努力を行い、活動指標である移住相談件数や空き家バンク登録件数、成果指標である社会減数の減少において効果が見られることは大きく評価することができる。また、暮らし体験事業では、体験者ニーズに応じたメニューに対応する等の工夫を図っていることも大きな評価に値する。</p> <p>町の住民目線での魅力を把握するべく、より一層の情報収集を図る必要があると思われるため、町民一人一人(大人から子ども、また子育て世代)の目線に立った魅力を把握する等の方策を取っていただければよいと思う。アンケートも1つの方法であるが、お祭り等一言メッセージを寄せていただく等の方法もあると思う。</p>